

②危機管理型水位計

ママ 神奈川県を例にすると、県内河川のうち、注意が必要な箇所や、福祉施設、病院などの重要な施設が近くにある場所に、危機管理型水位計の設置を進めているの。

ミッチ 危機管理型水位計というのは、洪水時の水位観測だけのためにつくられた水位計のことよ。

ヤッコ もしも洪水が発生したときに、川の近くに住んでいる人たちが、水位情報を確認することによって、スムーズに避難するための判断ができるよう、設置する水位計なのね。

③リアルタイム災害情報発信システム

ハスタ これは、災害警戒情報をすばやく発信するためのシステムだね。

ソラチョ たとえば、津波、土砂くずれ、台風、洪水なんかの情報だね。

ママ 一番の目的は、避難行動のすばやさ、正確さの向上なのよ。

④マイハザードマップ

ママ 自宅のまわりの危険が予想される箇所や、避難先・避難経路なんかを記入した「マイハザードマップ」をつくることで、災害に対する意識や心がまえが高まることをねらったものよ。

ヤッコ どうやってつくるのかしら？

ミッチ わたしがいうから、しっかり聞いてね。

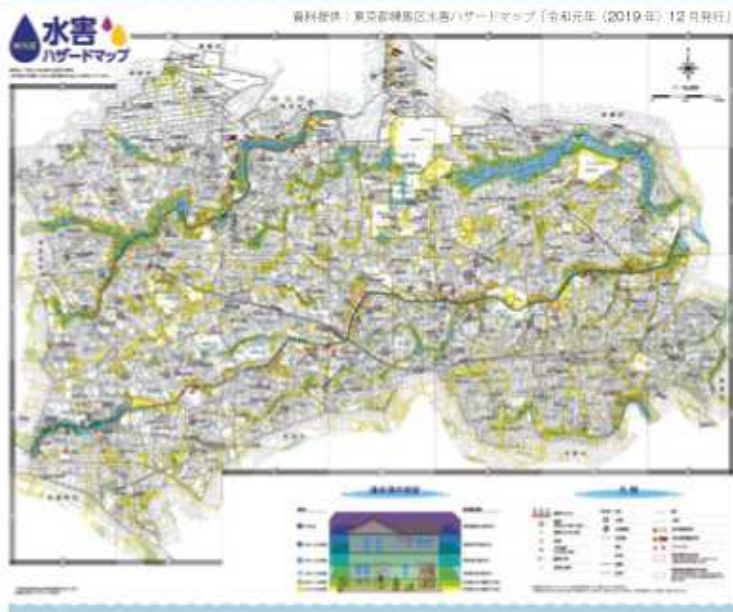
- ① 地図中の自宅の位置に印をつける。
- ② 近くの避難先を確認して、印をつける。
- ③ 自宅のまわりの危険箇所をチェック。
- ④ 自宅から避難先への避難経路に印をつける。
- ⑤ 災害のときに必要な、街中にある消火器や防災備蓄倉庫の位置を確認して印をつける。
- ⑥ 実際に歩いて、「正確さ」「不足点」などについて確認する。

ママ ⑥が終わったら、気がついた危険箇所・注意点について、家族みんなで協力して改善することが大切ね。



ハザードマップを活用しよう！

ハザードマップは、水害だけでなく、さまざまな災害に対して、どのような被害が想定されるかをまとめたもので、各市町村でつくられています。自分の住んでいる地域のハザードマップを手に入れて、オリジナルのハザードマップをつくってみましょう。



ハザードマップは、自分の身を守るためのものよ。



まず、自分の住んでいる地域の洪水ハザードマップを手に入れましょう。そして自分の住む地域の細かい地図をつくってみましょう。その地図をもとに、どんなところをチェックしたらよいか、チェックリストをつくっていきましょう。

地図をもとに、友だちといっしょにその地域を歩きます。その際に準備するものは、チェックリスト、自販、ペン（黒ペンだけでなく、赤ペン、ラインマーカーなど）、デジカメ、メジャーや巻尺、歩くコースの入った地図などです。

歩きながら、避難場所や危険箇所をチェックして、気がついたことをメモして写真におさめます。地域を歩いて、とってきた写真を大きな地図に

はりつけます。チェックした場所はメモで確認しましょう。確認できたことを大きな地図に書きこんでいきます。自分で見てきた施設なども地図に記入します。そのとき、みんなで意見を出しあいます。話し合いの中で気になった点は、地図や写真にコメントを書きこみます。

最後に相談して、避難所までの道順を書きこんでいきます。これで自分の住んでいる地域のハザードマップができあがります。

ハザードマップポータルサイト (<https://disaportal.gsi.go.jp/>) などを活用して、パソコンでオリジナルのハザードマップをつくってみてはいかがでしょうか。